

2 1 拓桃ボールリレー

I 競技の特性

一列に並んでボールを次々と手渡し、速くボールを運んだチームが勝利となる。年齢や障害の有無に関わらず楽しめるスポーツである。

本校では、中間地点と最終地点の2箇所にシュートコーナーを設置した。中間地点でシュートが入らないと、次のプレイヤーにボールを渡すことができない。また、最終地点では、シュートが入った時点でゴールとするルールを追加した。

II 施設・用具

1.施設(図1)

移動式のゴール（バスケットリングなど）があれば、屋内・屋外問わず行える。

2.用具(図2) ※2チーム対抗戦の場合

(1)バスケットリング（移動式2台）

体育館等に設置されているリングをそのまま使うのもよい。

(2)ディスクゴルフバスケット（2台）

中間地点に設置。他のもので代用も可能。

(3)ボール（2個）

ドッジボール大の柔らかいボールが望ましい。

(4)審判旗(1本)

(5)掲示板、ストップウォッチ

2チーム同時に競技ができない場合に、1チームずつ行い、タイムを計測し掲示する時に使用する。

III 競技の方法

1.人数（チームの編成等）

2チーム以上の団体戦で行う。人数は、1チーム10人以上が望ましい。

2.競技の進め方と勝敗の決定

(1)各チーム、並び順番を決定する。

(2)審判の合図で先頭の選手からボールを手渡しする。

(3)中間地点のシュート係の選手は、ディスクゴルフバスケットにシュートをする。シュートが入るまで何度もシュートをする。

(4)シュートが決まったら、補助員がディスクゴルフバスケットからボールを取り出し次のプレイヤーに渡し、選手は隣のプレイヤーに手渡しする。

(5)最終地点のシュート係の選手は、バスケットリングにシュートをする。シュートが入るまで何度もシュートをする。

- (6)最終地点でのシュートが成功した時点でゲームは終了。早く成功させたチームが勝ちとなる。

3.審判，補助員の役割

(1) 審判

- ①各チーム準備ができたことを確認し，スタートの合図を出す。
- ②正確に手渡ししているかを確認し，反則をしたチームの負けを宣告する。
- ③ゴール地点で，どちらのチームが早くシュートを成功させたかを確認し，勝利チーム側に旗を掲げる。

(2) 補助員

- ①選手がボールを落とした場合に拾う。手渡しが完全に完了していない時点で落球した場合には，手渡しした選手にボールを渡す。
- ②シュートが成功した場合には，ディスクゴルフバスケットからボールを取り出して，選手に渡す。

4.その他

- (1)以下の反則はいずれも，その時点でチームの負けとなる。

- ①ボールを投げた場合
- ②手渡ししようとする動作が見られる前に，次の選手がボールを受け取った(奪い取るような動作)場合

- (2)車椅子を使用していない選手は，椅子に座る。

IV その他

1.アレンジ

- (1)競技スペースが狭い場合には，直線ではなく，U字に選手を配置する。
- (2)複数チームが同時に競技できない場合には，1チームずつタイムを計測する。
- (3)体(車椅子)を後ろ向きにしたり，ボールを頭上から渡したりといった課題を難しくしていく。

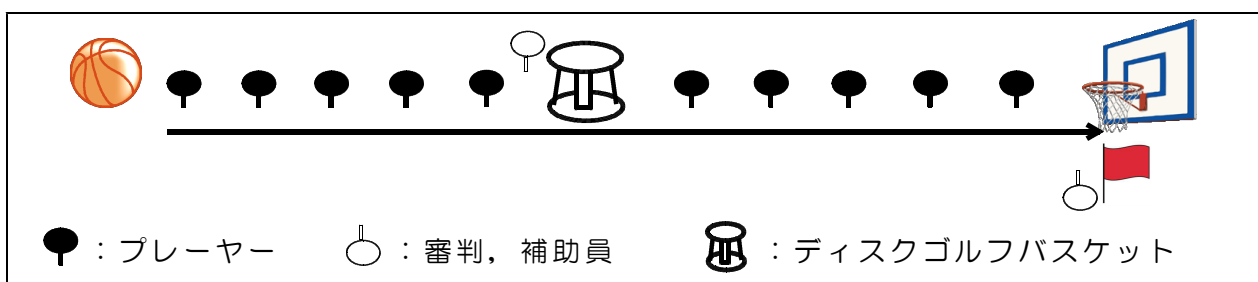


図1 コート全体



図2 用具(左：ディスクゴルフバスケット 右：バスケットリング)